



Ktunes
RACING

🇯🇵 M.NITTA 🇯🇵 Y.NAKAYAMA

Super GT 2018 Rd,3 Suzuka GT Report 2018/5/19

Qualifying Day Summary

K-tunes RC F GT3は公式練習からトップタイムを記録し
予選Q1を新田守男選手が2番手で突破すると
予選Q2で中山雄一選手がコースレコードを樹立しポールポジションを獲得

Qualifying Day

2006年より12年に渡ってSUPER GTのシリーズ戦として、8月に実施されてきた伝統の「鈴鹿1000km」。だが、2018年はGTマシンの世界統一戦として開催されることになったため、SUPER GTの鈴鹿ラウンドは5月に行なわれることになり、走行距離も通常のレースと同様の300kmに短縮された。装いも新たになったAUTOBACS SUPER GTシリーズの第3戦「SUZUKA GT 300km Fan Festival」は、5月19日（土）と20日（日）の二日間に掛けてスケジュールが組まれていて、19日に公式練習と予選、20日に決勝レースが実施される。

今シーズンからチーム体制を新たにして初参戦することになった「K-tunes Racing LM corsa」。地元開催となった開幕戦の岡山国際サーキットラウンドでは、予選で6位を獲得したものの決勝レースは14位でフィニッシュ。第2戦は予選が18位で、決勝レースが14位と本来の実力を発揮できないままである。

第3戦の舞台となる鈴鹿サーキットでは、4月16日と17日に第3回目の公式テストが実施されていて、K-tunes RC F GT3は、ウエットコンディションでトップタイム、ドライコンディションで2番手タイムと相性の良さをみせた。そのため、第3戦では本来のパフォーマンスをみせ、上位入賞することが期待されていた。

19日は、前夜に降った雨によって明け方はウエット路面が残っていたが、8時10分からスタートしたFIA-F4の予選でマシンが走行するとすぐに路面は乾き、ドライコンディションへと変化した。公式練習は予定通り9時に始まり、10時25分までがGT500クラスとGT300クラスの計44台による混走で、10時25分から35分の10分間がGT300クラスの専有走行となっている。

Qualifying Day

公式練習のコースオープンとともに中山雄一選手が乗り込んだ K-tunes RC F GT3 は、快走をみせる。計測 5 周目には早くもコースレコードに迫る 1 分 57 秒 634 をマーク。その後は、ピットインとアウトを繰り返してセットアップの調整や持ち込まれたタイヤの確認を行なう。そんな状況のなかでも計測 16 周目に 1 分 57 秒 240 を記録し、GT300 クラスの従来のコースレコード 1 分 57 秒 543 を上回った。公式練習も残り 30 分を迎えると新田守男選手にドライバーをチェンジする。新田選手も 8 周を走行し 7 周目に 1 分 57 秒 938 をマーク。公式練習の結果は、中山選手によって記録されたタイムが GT300 クラスのトップとなった。

<予選>

公式練習後に実施された 15 分間のサーキットサファリでは、新田選手が K-tunes RC F GT3 に乗り込み予選前の最終確認を終えた。サーキットサファリから約 3 時間を空けて、予定通りに 14 時 35 分から実施された予選 Q1。K-tunes RC F GT3 は、新田選手が再びステアリングを握ってコースイン。4 周に渡って念入りにタイヤに熱を入れて計測 5 周目にタイムアタックを行なう。ライバル勢も公式練習からタイムアップする中で、新田選手も 1 分 56 秒 965 までタイムアップさせ、予選 Q2 を 2 番手で通過した。

GT500 クラスの予選 Q1 を挟んで、15 時 30 分から予選 Q2 がスタート。K-tunes RC F GT3 に乗り込んだ中山雄一選手は、コースオープンとともにピットを離れる。2 周に渡ってタイヤに熱を入れるとともにクリアラップが取れるような位置取りを行ない、3 周目にアタックを実施。鈴鹿サーキットの 4 つのセクター全てで最速タイムをマークして、完璧なアタックラップを行ない、1 分 55 秒 531 のコースレコードを樹立するとともにポールポジションを獲得した。

RC F GT3 としても初のポールポジションを獲得した K-tunes Racing LM corsa。公式練習では安定したラップタイムで走行していたこともあり、明日の決勝レースは、ポールトゥウィンが期待される。



Team Comment



Director : 影山 正彦

開幕戦こそ予選で Q2 に進出できましたが、決勝レースでは 2 戦ともトップ 10 内に入ることができませんでした。そこで前戦が終了してからチームの懸命な作業によって大幅にセットアップを変更し、鈴鹿サーキットラウンドに臨みました。事前の公式テストでも相性が良いことは分かっていましたが、公式練習と予選ともに想像以上のタイムと結果が残せました。ドライバーを含めたチーム全員が確実な仕事をしたからこそ得られたポールポジションだと思います。チームの雰囲気は良く、モチベーションも高いので明日の決勝レースは、しっかりと結果を残したいです。



Driver : 新田 守男

公式練習で乗ったときは、バランスなどに若干の問題がありましたが、多少のアジャストで対応できる範囲でした。今回は、持ち込みの状態と用意されたタイヤがサーキットのコンディションに高い次元で合っているようです。予選は Q1 を担当したのですが、Q2 に進出さえできれば中山選手が好結果を出してくれると思っていたので、是が非でも突破する気持ちでした。そのため、少し慎重になりすぎたかもしれませんが、タイムとしては 2 番手だったので良かったです。明日の決勝レースは、JAF-GT 勢がタイヤ無交換などの戦略を採ると思いますが、どんな状況でも GT3 勢のトップにいられるようにしたいです。



Driver : 中山 雄一

昨年から RC F GT3 に乗っていますが、このマシンに初のポールポジションを与えられたことを嬉しく思います。今回は、公式練習から調子が良いことが感じられて、用意されたタイヤもコンディションにマッチしています。とくに予選のコンディションと合っていたようで、予選 Q2 では想像以上のタイムが出ました。2 番手をコンマ 5 秒以上離れたことも驚きです。明日の決勝レースはポールポジションからのスタートになりますが、回りの戦略やタイムに惑わされることなく、自分達のレースを着実にこなせればと思っています。

2018 年スーパー GT レーススケジュール

- ▶ 5.19-20 Round.3 SUZUKA
- 6.30-7.1 Round.4 THAILAND